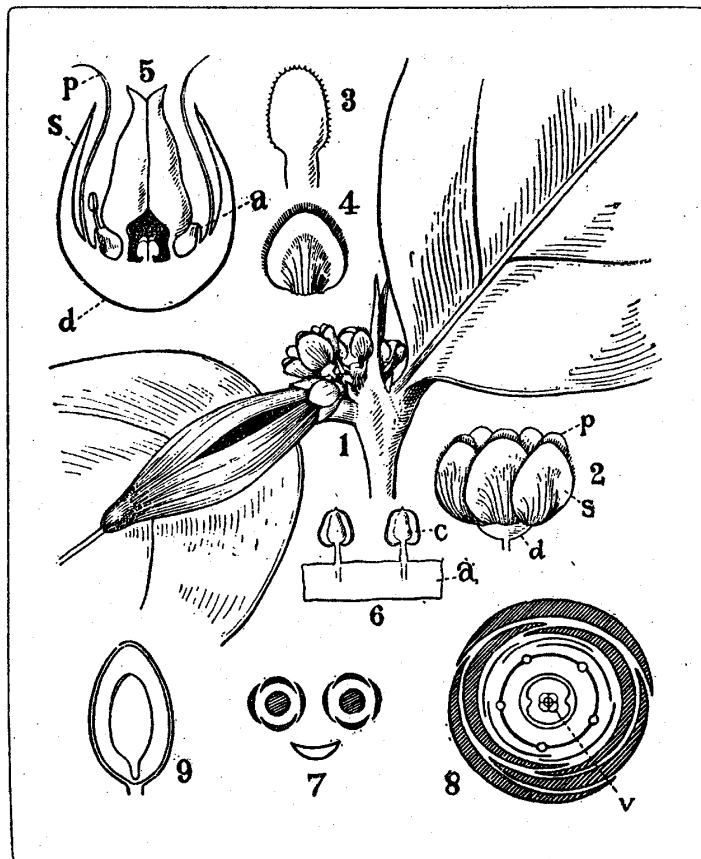


性にして對生、卵形革質である、托葉は之を欠く、短き葉柄あり。聚繖花序は殆んど無柄の五花を以て成り葉腋に生じ苞及小苞あり。

一屬一種にして秦木 (*Chingithamnus osmanthoides* H. MAZZTT.) と云ふ。

本科の特徴は、花が杯状の花床を有し、雌蕊周位花なる事、花瓣は萼片對生なるものゝ如く、雄蕊は haplostemon で萼片對生なるものゝ如く、花床内縁に近く突出せる環輪上に座する事、心皮は二枚にして全然合一し、子房は一室胎座は子房室底の中心にありて、胚珠は四ヶ、倒性にして直、珠柄の通導部は内位なる事等にして、最も *Sapindales* 中の *Celastrineae* に近きものゝ如しと雖も自然の一目を成すものなるべし。

(G. KOIDZUMI)



1. 果花枝ノ一部
 2. 花
 3. 花 瓣
 4. 萼 片
 5. 花ノ縦斷
 6. 雄蕊ノ着生
 7. 苞ト花ノ位置
 8. 花式圖
 9. 種子ノ縦斷
- a. 環輪 c. 雄蕊 d. 花床
p. 花瓣 s. 萼片 v. 胚珠

(H. MAZZETTI.)

Chingithamnus.

PALM, B. T.: — A *Mitrastemon* (*Rafflesiaceae*) from Sumatra, in (Medd. fr. Göteb. Botan. Trädg. IX (1934) 147-152.)

ヤツコサウ屬 (*Mitrastemon* MAKINO) は最初牧野富太郎博士が記載された屬で初めは本邦に特産のものと思はれたがその後早田文藏博士が臺灣に見出された貴重な寄生植物である。

その後可なり永くそれ以外の産地で知れなかつたが、スマトラ島にも分布して居るもので PALM 氏はそれを報告せられたが氏は臺灣産の *Mitrastemon Kanechirai* YAMAMOTO と同種と検定して居る。(J. OHWI)

リンネウス氏：—植物の種類 (1753)—複製東京版 (LINNEUS:—Species Plantarum I-II (1753)—Tokyo (1934)).

植物文獻刊行會にては今度 LINNAEUS 氏の *Species Plantarum* を再印刷されて會員に配布された。二巻 1200頁の厚い本で脊革布張りの美装。巻末には中井猛之進教授の名解説がある。印刷の鮮明なのは嘗て獨逸で再印刷されたものなどと比較にならぬ程すぐれてゐる。この本が現在の分類學の出發點となつてゐる事だけでも如何に學術的に必要なるかは知れる。吾人の及びもつかぬ様なこの著書がかかる廉價にて入手出来るとは實に想像もしなかつた事で謹んで厚く感謝の意を表し度い。〔東京市京橋區木挽町四丁目榊原ビル 植物文獻刊行會發行——上下共九圓送料六拾錢〕

(北村四郎)

飯柴永吉氏：—日本産蘚苔類資料 (Materiae Florae Bryophytae Nipponicae, in Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., vol. XIII, Pt. 4, 1934)

主に日本各地より代々送られたる標品により、蘚類 5新種 10變種 1形種及び故 BROTHÉRUS 博士の新種 1、苔類 1新種 1變種が發表されてゐる。 *Brachythecium angustifolium* IHS., *Brachythecium Nakazimae* IHS., *Distichophyllum Tutigae* IHS., *Philonotis Uii* IHS., *Cyathophorella Nakazimae* IHS., *Trichostomum robustum* BROTHÉRUS. Mss., 及び *Madotheca kōtukensis* IHS., が新種である。(外山禮三)

野口彰氏：—Contribution to the Moss Flora of Formosa. (in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa vol. XXIV, No. 134. October 1934)

New to Formosa として 13種があげられ、*Mnium Horikawae* NOGUCHI, *Oligotrichum formosanum* NOGUCHI. が新種として發表され、後者の圖解がそへてある。*Neckeraopsis pseudonitidula* OKAM. を分枝の状態等の爲に *Homaliodendron* 屬に移され、*Cyathophorella Doii* SAKURAI を *Lopidium nazeense* (THÉR.) BROTH. の syn. にされたのは採録者も眞に同感の點である。同氏及び苔の研究を完成され、蘚界に研究の歩を進められたる 堀川芳雄博士の研究發表は南日本の蘚類に興味を有する採録者の深く關心し待つ所のものである。(外山禮三)